

認定看護師教育基準カリキュラム

(特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)

分野：透析看護

平成 26 年 5 月改正

平成 29 年 3 月改正 (共通科目のみ)

平成 31 年 4 月改正 (共通科目のみ)

令和 3 年 3 月改正 (共通科目のみ)

(目的)

1. 透析療法を必要とする患者に対し、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。
2. 透析療法を必要とする患者の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。
3. 透析療法を必要とする患者の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。

(期待される能力)

1. 透析療法を必要とする患者に対して、総合的な臨床判断に基づく個別的なケアを実践できる。
2. 透析療法に関する専門的知識と技術を用いて、最適な透析効率を保証し、安全で安楽な透析療法を透析医療チームと協働して実践できる。
3. 長期にわたる療養生活を支援するため、セルフマネジメントに関わる患者教育が実践できる。
4. 透析看護を必要とする患者・家族の権利を擁護し、自己決定を支援する看護を実践できる。
5. より質の高い医療を推進するため、他職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。
6. 透析看護の役割モデルを示し、看護職者への指導・相談を行うことができる。

教科目一覧

	教科目名	必修/選択	時間数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	必修	15		105
	2. 医療安全学：医療安全管理	必修	15		
	3. 医療安全学：看護管理	必修	15		
	4. チーム医療論（特定行為実践）	必修	15		
	5. 相談（特定行為実践）	必修	15		
	6. 臨床薬理学：薬理作用	必修	15	小計	
	7. 指導	必修	15	105	
	8. 特定行為実践	選択	15		105（+305）
	9. 臨床薬理学：薬物動態	選択	15		
	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	選択	30		
	11. 臨床病態生理学	選択	40		
	12. 臨床推論	選択	45		
	13. 臨床推論：医療面接	選択	15		
	14. フィジカルアセスメント：基礎	選択	30		
	15. フィジカルアセスメント：応用	選択	30		
	16. 疾病・臨床病態概論	選択	40		
	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	選択	15		
	18. 医療情報論	選択	15	小計	
	19. 対人関係	選択	15	305	
専門基礎科目	1. 透析看護概論	必修	15		105
	2. 病態生理と治療法概論	必修	30		
	3. 透析療法の理解	必修	30		
	4. 患者及び家族の理解のための理論	必修	30	小計	
専門科目	1. 血液透析技術	必修	45		165
	2. 腹膜透析技術	必修	30		
	3. 透析部門における安全管理	必修	15		
	4. 透析療法を必要とする患者及び家族の生活支援	必修	45		
	5. 透析看護におけるチームアプローチ	必修	15	小計	
	6. 透析看護におけるコーディネート	必修	15	165	
学内演習・臨地実習	学内演習	必修	60		240
	臨地実習	必修	180	小計	
			総時間数		615（+305）

■共通科目

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
医療安全学： 医療倫理 (必修)	15	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	1. 医療倫理の理論 2. 医療倫理の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
医療安全学： 医療安全管理 (必修)	15	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	1. 医療管理の理論 2. 医療管理の事例検討 3. 医療安全の法的側面 4. 医療安全の事例検討・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習（医療安全）★ [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価
医療安全学： 看護管理 (必修)	15	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	1. ケアの質保証の理論 2. ケアの質保証の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
チーム医療論 (特定行為実践) (必修)	15	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	1. チーム医療の理論と演習・実習 2. チーム医療の事例検討 3. 多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む	[授業形態] 講義、演習及び実習（チーム医療）★ [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価

★「医療安全学:医療安全管理」と「チーム医療論(特定行為実践)」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
相談 (特定行為実践) (必修)	15	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	1. コンサルテーションの方法	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬理作用 (必修)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
指導 (必修)	15	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育 3. 教材観（主題観）、対象者観、指導観 4. 学習指導案の作成・発表	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
特定行為実践 (選択)	15	特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ①特定行為関連法規 ②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 2. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ ①手順書の位置づけ ②手順書の作成演習 ③手順書の評価と改良	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学すべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床薬理学： 薬物動態 (選択)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	1. 薬物動態の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物治療・管理 (選択)	30	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	1. 主要薬物の相互作用の理論と演習 2. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床病態生理学 (選択)	40	臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床推論 (選択)	45	症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/ 病理検査/微生物学検査/ 生理機能検査/その他の検査 4. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/ 超音波検査/CT・MRI/ その他の画像検査 5. 臨床疫学の理論と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床推論： 医療面接 (選択)	15	医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	1. 医療面接の理論と演習・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習 (医療面接) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 基礎 (選択)	30	身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	身体診察・診断学 (演習含む) を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/ 頭頸部/胸部/腹部/ 四肢・脊柱/泌尿・生殖器/ 乳房・リンパ節/神経系	[授業形態] 講義、演習及び実習 (身体診察手技) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 応用 (選択)	30	小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 2. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論 (選択)	40	主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/ 腎泌尿器系/内分泌・代謝系/ 免疫・膠原病系/血液・リンパ系/ 神経系/小児科/産婦人科/精神系/ 運動器系/感覚器系/感染症/悪性腫瘍/その他	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論： 状況別 (選択)	15	状況に応じた臨床診断・治療 (救急医療、在宅医療等) を理解する。	状況に応じた (あらゆる年齢・対象を含む) 臨床診断・治療を学ぶ 1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療情報論 (選択)	15	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
対人関係 (選択)	15	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

※1 「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。
症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。

「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習として認められないこと。

※2 全ての共通科目（「指導」「医療情報論」「対人関係」を除く）において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとする。

(厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html>)

■専門基礎科目・専門科目・学内演習・臨地実習

教科目	教科目のねらい	単元	時間数
専門基礎科目	1. 透析看護概論	1) 透析医療・看護の歴史的背景と現状の課題 2) 透析患者の生活支援 3) 透析看護の専門性 4) 透析看護における認定看護師の位置づけと役割 5) 透析看護における倫理 6) 透析医療における診療報酬 7) 糖尿病合併症管理料	15
	2. 病態生理と治療法概論	1) 病態の理解 (1) 腎臓の構造と機能 (2) 腎不全の病態生理 ①急性腎不全 ②慢性腎不全 (Chronig Kidney Disease : CKD の各病期を含む) 2) 病態に応じた治療法の概要 (1) 透析療法 (血液透析・腹膜透析) (2) 透析患者に必要なとなる療法 ①食事療法 ②薬物療法 ③運動療法 3) 腎移植の概要	30
	3. 透析療法の理解【新設】	血液透析療法・腹膜透析療法の原理と適応、合併症について理解する。	1) 血液透析療法の原理と適応 (1) 血液透析 (2) 血液透析濾過 (HDF:HemoDialysis Filtration) (3) その他 (血液吸着・血漿交換・CHDF:Continuous HemoDiaFiltration等) 2) 腹膜透析療法の原理と適応 (1) 連続携行式腹膜透析 (CAPD: Continuous Ambulatory Peritoneal Dialys) (2) 自動腹膜透析 (APD : Automated Peritoneal Dialysis) 3) 血液透析に伴う合併症 (1) 血液透析中の合併症 (2) 長期透析の合併症 (3) バスキュラーアクセス 4) 腹膜透析に伴う合併症 (1) 腹腔アクセス (2) 感染 (3) 被嚢性腹膜硬化症

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 基 礎 科 目	4. 患者及び家族の理解のための理論	1) 透析療法を必要とする患者に対し、看護過程の展開に必要な中範囲理論を理解する。 2) 透析療法を必要とする患者の看護に活用できるモデルを理解する。 3) 透析療法を必要とする患者の看護に活用できる尺度を理解する。	1) 透析療法を必要とする患者の看護に活用できる中範囲理論 (1) 家族理論 (2) ストレス・コーピング理論 (3) セルフケア理論 (4) 自己効力理論 2) 透析療法を必要とする患者の看護に活用できるモデル (1) 病みの軌跡モデル (2) 危機モデル 3) 透析療法を必要とする患者の看護に活用できる尺度 (1) 自己効力感尺度 (セルフエフィカシー)	30

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	1. 血液透析技術	1) 血液透析を安全・安楽かつ適切に実施するために必要な知識と技術を理解し実践できる。 2) 対象別血液透析技術を理解し実践できる。 3) 場面別血液透析技術を理解し実践できる。	1) 血液透析技術の基礎 (1) 至適血液透析計画 (2) 身体アセスメントと観察・モニタリング (3) 症状アセスメントとケア (4) バスキュラー・アクセス管理 2) 対象別血液透析技術 (1) 導入期の患者 (2) 糖尿病腎症患者 (3) 長期透析患者 (4) 高齢患者 (5) 小児患者 (6) 妊産婦患者 3) 場面別血液透析技術 (1) 在宅血液透析患者	45
	2. 腹膜透析技術	1) 腹膜透析を安全・安楽かつ適切に実施するために必要な知識と技術を理解し実践できる。 2) 腹膜透析セルフケア指導技術を理解し実践できる。	1) 腹膜透析技術 (1) 腹膜透析の導入準備 (2) 至適腹膜透析計画 (3) 身体アセスメントと観察・モニタリング (4) 症状アセスメントとケア (5) カテーテル管理 (6) 腹膜機能検査 (7) 中皮細胞診検査 2) 腹膜透析セルフケア指導技術 (1) 清潔操作 (2) 観察方法 (3) 異常時の対処法 (4) 腹膜透析方法の習得 ①バッグ交換 ②出口部ケア ③必要物品の管理	30

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	3. 透析部門における安全管理	透析部門における安全管理を行うためのリスクマネジメントと感染予防、災害時の危機管理技術を理解し実践できる。	1) 透析部門におけるリスクマネジメント <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療事故対策 <ul style="list-style-type: none"> ①透析回路・透析液に関する安全 ②透析環境に関する安全 ③患者に関する安全 ④医療従事者に関する安全 (2) 感染予防対策 <ul style="list-style-type: none"> ①スタンダードプリコーション ②感染経路別予防対策 <ul style="list-style-type: none"> ・空気感染（結核・麻疹等） ・飛沫感染（インフルエンザ等） ・接触感染（ノロウイルス等） ③血液媒介病原体対策（B型肝炎・C型肝炎） 2) 透析中における災害時の危機管理 <ul style="list-style-type: none"> (1) 災害への事前対策 <ul style="list-style-type: none"> ①必要物品の備蓄 ②患者教育 ③災害訓練（離脱・避難） (2) 発生時の対処 <ul style="list-style-type: none"> ①安全確保 ②離脱 ③避難 	15
	4. 透析療法を必要とする患者及び家族の生活支援	1) 透析導入前の患者・家族の生活支援を理解し、療養生活に必要な技術を実践できる。 2) 透析導入期の患者・家族の生活支援を理解し、療養生活に必要な技術を実践できる。 3) 透析維持期の患者・家族の生活支援を理解し、療養生活に必要な技術を実践できる。ただし、療法変更時の生活支援を含むものとする。 4) 対象の特徴に基づく支援方法を理解し実践できる。 5) 足病変に対する生活支援方法を理解し実践できる。 6) 透析患者・家族の生活に活用できる社会資源を理解し、支援方法を実践できる。	1) 透析導入前の生活支援 <ul style="list-style-type: none"> (1) 療法選択支援 (2) 導入準備 <ul style="list-style-type: none"> ①シャント造設部位の保護と管理 ②導入に向けての生活調整 (3) 透析受容への支援 2) 透析導入期の生活支援 <ul style="list-style-type: none"> (1) 透析を生活に取り込むための支援 (2) 導入期指導 <ul style="list-style-type: none"> ①透析療法 ②シャント管理 ③食事療法 (水分・塩分管理を含む) ④薬物療法 ⑤運動療法 3) 透析維持期の生活支援 <ul style="list-style-type: none"> (1) 透析を維持するための支援 <ul style="list-style-type: none"> ①心理的なサポート (療法変更時のサポートを含む) ②セルフモニタリング ③セルフマネジメント (2) 合併症の予防 <ul style="list-style-type: none"> ①うっ血性心不全・肺水腫 ②骨ミネラル代謝異常 ③心脳血管系合併症 ④透析アミロイドーシス 	45

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目			4) 足病変に対する生活支援 (1) 透析患者の足病変ハイリスク要因 ①糖尿病腎症 ②末梢動脈疾患 (2) フットケアの意義と基礎知識 (3) 足病変に対するアセスメント技術 (4) フットケア技術 (5) セルフケア支援と評価 5) 社会資源の活用 (1) 透析関係制度 ①特定疾病療養受領証の申請 ②自立支援医療 (更生・育成医療) ③身体障害者手帳の交付 ④障害者医療費助成制度 (2) 介護保険制度 ①介護保険制度のしくみ ②介護保険サービスの体系 ③要介護認定 ④介護サービスの種類	
	5. 透析看護における チームアプローチ 【新設】	チーム医療において看護師の担 う役割を理解し、透析医療チ ームとしての機能を発揮するた めのアプローチの方法を理解し実 践できる。	1) チームアプローチとは 2) 看護チーム内の協働 (1) 看護職者への指導 (2) 看護職者からの相談対応 3) 他職種との協働 (1) 医師・薬剤師・栄養士・臨床工学技士・ ソーシャルワーカー等	15
	6. 透析看護における コーディネート	1) チーム医療において看護師の 担う役割を理解し、自己決定 支援のためのコーディネ ーションを実践できる。 2) チーム医療において看護師の 担う役割を理解し、腎移植コ ーディネーションを実践で きる。	1) 自己決定支援のためのコーディネーション (1) 腎代替療法選択の意思決定支援 (2) 自己決定支援のためのコーディネー ション事例 2) 腎移植コーディネーション (1) 腎移植（待機中、腎移植、再透析、再登 録）への支援 (2) 腎移植における他職種との連携 (3) 腎移植のためのコーディネーション事例	15

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
学 内 演 習	学内演習	1) 透析を必要とする患者・家族への看護について、看護過程を理解し、情報収集、アセスメントを行い看護計画の立案ができる。 2) 糖尿病足病変に関する患者指導が実施できる。 3) ケースレポートの作成ができる。	1) 透析を必要とする患者の看護過程の理解と活用（事例検討） (1) 情報収集・アセスメント・看護計画の立案 (2) 患者・家族に対する教育計画の立案 2) 足病変のある患者の事例検討 (1) 足病変ハイリスク要因に関するアセスメントを行う。 (2) 指導計画を立案する。 (3) フットケア技術を実施する。 3) ケースレポート作成	60
臨 地 実 習	臨地実習	1) 透析を必要とする患者及び家族への看護過程を展開できる。 2) 透析を必要とする患者及び家族へのケアを実践できる。 3) 看護職者へ透析患者及び家族の生活支援の指導ができる。 4) 透析看護認定看護師の相談対応の実際を学ぶ。	1) 透析を必要とする患者を3事例受け持ち、看護過程を展開する。 2) 透析技術を用いて看護を展開する。 3) 看護職者への指導を行う。 4) 看護職者が認定看護師に相談する場面を見学する。	180